

■■■ KFCの「多文化間高齢者支援」 ■■■

現在、KFCの高齢者支援事業は、介護保険事業（以下、介護部門）として、デイサービス・訪問介護・居宅介護支援・グループホーム・小規模多機能型居宅介護を実施しています。また保険外の事業として、中国残留邦人帰国者等（以下、中国帰国者）支援・在日ベトナム人高齢者支援（いずれも交流会・相談事業等）を行っています。他、神戸市からの委託事業として、コミュニケーションサポート事業（介護保険利用に際しての通訳派遣。韓国・朝鮮語・中国語・ベトナム語を受託）も実施しています。

日本以外の文化的背景を持つ高齢者の現状については、当法人理事長が「自治体国際化協会コラム（<http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/column/index.html>）」に寄稿した文章にまとめられていますので、そちらをご参照いただければ幸いです。

ここで「日本以外の文化的背景を持つ」という長い枕詞を使ったのは、KFCの高齢者支援事業を利用されている方々が、「外国人」「外国籍」という表現ではうまく表せず（他国籍から帰化されて現在は日本国籍の方や、難民で来られ現在も無国籍の方、中国語でコミュニケーションをとられる中国残留「邦人」帰国者の方など）、また「外国語話者」という表現も適切ではなく（日常のコミュニケー

ションが日本語であるコリアンの方など）、「外国生まれ」というのとも違う（在日コリアン・華僑の2世や中国残留婦人の方など）

為、ぴったり当てはまる言葉が今のところ思い浮かばないからです。

そしてKFCの場合、介護部門に従事するスタッフも上記と同様の状況です。

2016年3月末現在、介護部門の利用者の文化的背景は、コリアン41名、日本26名、中国帰国者等11名、ベトナム7名、華僑3名で、「多」文化とは言っても東（南）アジア圏で、儒教的な考えや食文化、漢字由来の言語使用等、似通っている面も多々あるように思います。にもかかわらず「他」文化として前景化されるのは、各人が自文化を大切にしたいという思いがあるからなのでしょうが、一方で日本社会の狭量さ故なのかもしれません。コリアンの方の場合、日本語会話は支障のない方がほとんどですが、識字困難で書類等の対応に支援が必要な方がおられます。中国帰国者やベトナム人の方の場合、日本語困難な方が大半を占めます。

他方、4月現在の介護部門のスタッフの文化的背景は、コリアン14名、日本19名、中国帰国者2名、ベトナム4名、華僑1名、中国4名、モンゴル1名、ペルー1名です。スタッフについてはレベルの差はありますが一定の日本語能力を有しています。

各現場で込み入った内容のコミュニケーションを必要とする際は、利用者と同言語のスタッフが対応したり、通訳にはいたりしていますが、日常的には文化や言語が異なる利用者とスタッフ間でやりとりする事が多く（ベトナム人の利用者にはコリアンのスタッフが対応、日本人の利用者には中国人のスタッフが対応、等々）、利用者・ご家族としては「思いが十分に伝わらない」「説明が足りない」という不満が多くおありかと思えます。スタッフとしても「思いを十分に汲み取れない」「認知症の方等をさりげない会話で気分転換にお誘いすることが難しい」等、どうすれば良いのだろうと悩む場面が多々あります。ただ、介護や医療の現場で特徴的な事として、様々な要因でコミュニケーション障害をお持ちの方（認知機能・構音・聴覚・精神・意識等）と接す

る事が多い為、言語のみに依存せず、身体状況や動作・行動等を基に、可能な手段を見つけ出して対応するというベースをスタッフはある程度持ち合わせているように思います。

そして言語と同じくらいか、言語以上に衝突の原因となりやすいのが、文化や風習。「時間にルーズ」「マナーが悪い」「規律に欠ける」「声大きい・小さい」等、利用者間・職員間・利用者と職員間等、各組み合わせで、お互いに相容れないという事が生じます。そもそも大切にしている事が各々で異なる為、話が平行線でかみあわない事も日常茶飯事。そんな中であって、他文化の利用者や職員のふるまいをおおらかに受け入れて、にこにこ過ごされる利用者も多く、頭が下がる思いです。

スタッフとしては介護保険という制度に則って事業を実施している以上、「法令遵守の観点から逸脱していないか?」「文化的配慮を言い訳に、一般的に求められるケアレベルからレベルダウンしていないか?」と自己で、スタッフ間で、法人内で、第三者評価等でチェックを繰り返していますが、想定外の事が起こる度に頭を悩ませる毎日です。何もおっしゃらない利用者ほど、内心では様々な屈託や割り切れなさを感じつつ、「言葉が通じない」事を含め、諦めの思いで利用されているのかなと思うと、改善すべきことは少しずつでも改善しなくてはと思います。

神戸市の場合、他のサービス事業所でも文化的背景の異なる利用者に対応されており、またスタッフについても、EPAに基づいた形等も含め、日本語を母語としないスタッフが従事している事から、本当は意見交換等により、ケアの質の向上やスタッフのスキルアップ（資格取得も含めた）に努めなければならないのですが、現時点では十分には実施できておらず、課題の1つです。

個人的には、文化的背景への配慮は必要だと思いますが、属性でひとくくりにして「～人だから〇〇」といった固定観念で接したり、判断したりする事は、愚かだし慎みたいと考えています。対利用者、職員間において、普通に敬意を持って、個別の事情を鑑み、他責的にならず、和やかに過ごせるよう努めたいと思っています、、、が、現実には「今日もまた上手くいかなかった、、、」と反省し、「明日こそは和やかに過ごそう!」と誓う毎日です。

(ケアマネージャー 吉本 直子)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆日本の夜間中学校の思い出

シューズプラザの木曜日夜の日本語教室に通っているベトナム人のファン・バン・ウトさんを紹介します。

昨年3月に日本の夜間中学を卒業し、その後、昨年6月から日本語教室で勉強を続けています。ベトナムのブンタウ出身で、仕事をするために10年前に来日し、現在、国内外向けのスポンジのスライス作業を行っています。薄いものは0.6mmの物もあり、色々な用途に使われているようです。36才、独身です。

「来日前にベトナムで2ヶ月ほど日本語の勉強をしていましたが、日本に来て最初の6年間はひたすら工場で働いていました。4年前の2012年2月頃、友達から夜間中学校の事を聞き、日本語を勉強したい、日本社会の事をもっと知りたいという気持ちで、面接を受け、無事4月に神戸市立丸山中学校西野分校に入学しました。

西野分校には1年生から3年生までで約40人位の生徒がいて、高齢の方から若い人もおり、日本以外に中国・台湾・韓国・ベトナム・タイ・ケニアなどから来ていました。授業は、夕方の5時半から9時40分ですが、その間に給食と掃除の時間があります。授業は40分授業です。ベトナムでは怖い先生が多かったのですが、日本の先生はやさしく、ゆっくりわかりやすく教えてくれまし

た。好きな科目は、日本語・美術・社会で、特に漢字を書くことが大好きでした。苦手な科目は数学でした。また、遠足などの行事も楽しかったのですが、学校帰りに時々皆と行く飲み会も非常に楽しいものでした。日本人の友達も外国人の友達もできました。

3年間の学校生活も終わり、2015年3月に卒業しました。先生からのアドバイスもあり、日本語の勉強を続けています。最後にどうしても言っておきたいことは、『西野分校と先生には本当に感謝しています。いい先生が多く、とてもありがたかった。』ということです。これからも、日本にずっと住みたいと考えています。」（ニュース係 川渕 啓司）

◆スピーチ会

3月19日土曜日、ホテルサーブアスタにてスピーチ会が行われました。

KFCの学習者8名が、立命館大学付属高校の学生、教職員の方々など42名の前で、母国のこと、日本での生活、日々感じていることなどをテーマにスピーチをしました。

始まる前から既に各テーブルで交流が始まっており、和やかな雰囲気の中で写真や模造紙などを用いて工夫を凝らした発表がなされました。

普段、日本語学習とはあまり関わりのない、それも初対面の人たちの前でのスピーチは、準備するのも大変だったことでしょう。当日もきっと緊張したと思いますが、皆、話したいことをきちんと落ち着いて話していました。学習者にとっては、学習の成果を認識する場となり、また高校生の方々にとっても普段知ることのない話を聞く有意義な場となったのではないのでしょうか。また学習者の頑張っている様子は、ボランティアの私にとっても大いに励みになりました。

質問タイムの後、発表者には高校生の皆さんより高校のある地方の名産品（どれもおいしそうなものばかり！）が贈られました。終了後は写真を取り合うなど、非常に和気あいあいとした空気でした。特に若い方同士の打ち解けた様子はうらやましいばかりです。

このスピーチ会は今回で二度目の開催ですが、昨年同様華やかな雰囲気、楽しい夜となりました。参加することができて幸せに感じています。（吉井 朋子）

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆ 5回目のこうべプレススクールを終えて

2016年1月から3月の3か月間、毎週土曜日に今年度もプレススクールを実施しました。今年度もベトナム、中国、タイ、韓国朝鮮、フィリピンといった様々な背景をもつ子どもたちが通ってきました。通っている幼稚園や保育所が違って、何度か一緒に勉強すると、気持ちも打ち解け、私たちスタッフが促さなくとも「プレススクールのお友だち」という関係になっていきます。子どもたちの能力に驚かされることが多いです。

今年度は、学習に参加した子どもたちの年齢や日本語での生活体験がそれぞれ違うことから、学習者の実態に合わせて、個別の学習時間も取り入れました。全体学習として日本の小学校の授業スタイルを体験しながら、個別学習でそれぞれの学習課題に取り組みました。書き順や筆圧、日本語の発音や語彙など、子どもたちや保護者たちが不安に感じている部分は、繰り返し丁寧に練習します。

これら個別学習に関しては私だけではなく、KFCのスタッフをはじめとして支援ボランティアの方々の力を借りることで、きめ細やかなティームティーチングでの対応ができています。

今年度、初めての取り組みとして、一部で「おうちの人と一緒にする宿題」を実施してみました。子どもたちのひらがなのプリントに「お家の人に書いてもらおう」というコー

ナーを設けて、それぞれの家庭の言語で単語を併記してもらおうという取り組みです。以前プレスクールのスタッフで見学に行った愛知県の就学前教育の取り組みからヒントを得ました。「あり」や「あめ」、「うし」や「うま」と子どもたちが練習したひらがなの下に、ベトナム語でそれぞれの単語を併記してもらいました。保護者の方のご理解とご協力に感謝しております。

ひらがなや一斉授業の体験といった、日本の学校への適応のための準備として行われている就学前支援ですが、子どもたちの家庭の言語や文化をどのように取り入れ、活かしていけるかが課題です。

さて、プレスクールに通っていた学習者の子どもたちはそれぞれの学校で、どんな学校生活を送っているのでしょうか。プレスクールは3か月間と限られた期間ではありますが、今後とも子どもたちの学校生活を応援できるように、就学前支援の充実をめざしていきたいと考えています。

来年度もご支援やご参加、お待ちしております！
(薮田 直子)

◆ 高校進学状況

3月に中学3年生5名の高校進学が無事に決まりました。それぞれ希望する公立の普通科3名、国際科1名、工業科1名に進むことになり、また小学校6年生の1名も芦屋国際中等教育学校へ合格しました。

4月初めには「友達できるかなあ」と心配そうに来所した高校生も、1週間後には「友達できたでえ」と報告に来てくれました。それぞれ卒業、その後の進学に向け、頑張ってくれることを願っています。(志岐 良子)

◆ 在日外国人児童読書の会

この事業は2010年度から、新長田図書館で週1回行っています。その翌年からは、駒ヶ林小学校での活動も展開し、参加する子どものニーズに応じて、内容や曜日を変え実施してきました。今年で6年目になります。

現在、新長田図書館では毎週金曜日16:30~17:30に開催し、英語教室と読書をしています。小学生1年生から4年生まで、6人が参加しています。駒ヶ林小学校では2014年度まではベトナム人児童を対象にした「ベトナム読書の会」でしたが、2015年度より「グローバル読書の会」と名称を変え、月1回行っています。多い時は19人の子どもが参加しています。ベトナム語によるベトナムの昔話を読んでから、子どもたちが交代で朗読をします。他に季節に応じた工作やゲームを楽しんでいます。

読書の会と言っても、単に本を読むだけでは子どもたちには物足りないため、毎回終了後スタッフが次回の流れを話し合い、本を楽しめるような様々な工夫をしています。

(ハティ タン ガ)

週に1回、新長田図書館で小学生たちと英語を勉強しています。言葉は実際に使って初めて学んだと言えると思うので、ただ書いたり聞いたりするだけでなく、出来るだけ子どもたち自身が声に出して表現を学ぶことを目標に活動しています。時には題材を通じて、それぞれの知る文化や言語について話すこともあり、英語の勉強を通じて、言葉だけでなく世界中のさまざまなことに触れ、子どもたちの視野を広げる機会になれるよう取り組んでいます。(神戸大学 越智 美早)

◆神戸国際交流フェアに出演して

3月13日(日)、毎週K F C活動に参加している帰国者たちは神戸国際交流フェアに広場踊りで出演しました。

昨年度からK F C帰国者新長田交流会の活動では、広場踊りが増えました。広場踊りは中国でここ2、3年一番流行している健康的な踊りです。特に中高年にとって、とても身体に良いスポーツだと思います。

今回の出演は私も含め皆さん一生懸命頑張りました。参加者は平均年齢65歳以上でした。でも楽しい歌と曲があり、優雅な踊りの姿と共に皆は幸せな気持ちがいっぱいでした。皆は楽しさに酔っているようでした。自分の年齢も忘れてしまいました。まるで若い頃に戻ったように感じました。今回の演出はすごく成功しました。

(ボランティア 仲松 蘭子)

◆「三姉妹～雲南の子」を観て

KFCの帰国者交流活動は日本語学習支援活動だけではなく、神戸国際交流フェアでの舞台にも参加させてくれました。さらに、神戸映画資料館で世界の優秀な映画を鑑賞させてくれます。

この間、ヴェネツィア国際映画祭オリゾンティ部門グランプリを受賞した「三姉妹」という映画を鑑賞しました。王兵監督のこの作品は、中国の雲南省にある「洗羊塘」という高地の村に住んでいる3姉妹—英英、珍珍、芬芬のドキュメンタリー映画です。バックグラウンドミュージックも主題歌もないので映画の静かさと自然さがあふれていました。

三姉妹の労働の場面を見ながら、彼女たちの生活世界に入り込んで三人の素朴さとかわいさを感じ取ったと同時に、観衆としての私たちは心の痛みも味わいました。

三姉妹は中国の農村に残された普通の三人の児童です。この映画を見たら、21世紀の今日に、想像するのが難しいほどのこのような貧困があるとはだれも思わなかったでしょう。一方、ストーリーの進展と共に子どもたちはカラーテレビを楽しく見たり、村の豊作の祝いを楽しんだりするシーンも見られました。国の新しい医療政策が「洗羊塘」まで届いている場面もありました
が…。

近い将来、3人の姉妹が時代の歩みと共に自分の夢を実現すると私は信じています。もし映画「三姉妹」の続編があれば、きっと新しい英英、珍珍、芬芬の姿が現れることでしょう。(帰国者一世 治井 愛子)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ ■■■

◆介護福祉士資格受験について

第28回介護福祉士国家試験を受験しました。今年1月の試験にむけ、昨年8月から、勉強を始めました。しかし、私は学生の時から、勉強をするのがとても苦手でした。そんな私が、国家試験を受験する為に、勉強することが私自身、不安で一杯でした。でも、やるからには精一杯勉強し、合格しようと決心しました。それから、半年間、職場の皆さんに、アドバイスを頂き、勉強のやり方から、教えてもらいました。でも、昼間は仕事があり、家では子どもがいるので、勉強する時間はどうしても夜になってしまいます。集中力が続かず、時間も1時間程しか取れません。勉強せず、寝てしまったり、気分が乗らずダラダラしてしまったりすることも多々ありました。法律や医療的な漢字が読めず、つまずき、諦めかけた事もありました。しかし、毎日少しずつ勉強を重ねて行くうちに、一昨年、昨年の試験問題で、合格点が取れるよう様になりました。そして、段々と自信がついてきました。

そして、とうとう受験の日がやってきました。「頑張ってくるわ!」と子どもとハイタッチし、家

を出しました。しかし、試験が終わってすぐの感想は、「落ちた…」でした。問題が難しく、合格する自信が全くありませんでした。合格発表までの二ヶ月間、とても不安で、長かったです。そして、合格発表！。自分の受験番号を見つけた時、信じられませんでした。それと同時に、とても嬉しかったです。

受験勉強資料を毎週準備して下さった事務所の皆さんにとっても感謝しています。今回、合格することができましたが、介護福祉士としても、人としても未熟で頼りない私です。でも、母として、子どもの為に、今回の事を自分の自信として、将来さらに頑張ります。

(中井 伸枝)

■■■ ハナの会 ■■■

◆お花見

4月2、4～6日の4日間、お茶とおやつ（まんじゅう、おかき）を持参してお花見に行きました。

「毎年みられる桜の花が待ち遠し」、「ありがたいわ」、「曇りだから大丈夫かな〜」、「私は行かずにデイにいるわ」とわいわい言いながらみんなで妙法寺川に行きました。

着いとたん「えへよ〜」とおとなしかった利用者様が韓国の歌を歌いだし、踊りまで始めました。美しい桜を見ている喜び顔はさくらよりもきれいだと思いました。

リーダーは市場でバナナのたたき売りを見てきたのか残ったおやつを大声で売り始めたら、利用者様も「1万円でこうた、2千円でこうた、5円でこうた」と次々と買い、全部売れて大喜び、笑声が続きました。

ベトナム人の利用者様もきれいに咲いた桜の花をふわふわと触りながらとっても幸せそうな顔で歩きまわりました。

とっておきの良い場所でちょうど咲き出した桜を雨が降る前に見られて今年の花見は最高でした。

来年もきっときれいな花を咲かせるだろうと思いながら帰りました。 (黄 成 任)

■■■ 今後の予定 ■■■

■■総会&学習会

5月21日(土)18:00〜 「外国人高齢者支援の難しさ」

森 佳緒里 (グループホームフロアリーダー)

19:00〜 総会

■日本語プロジェクト

6月5日(日) 10:00〜17:00 日本語カフェ

於 デイサービスセンターハナの会

■ハルモニと行く故郷ツアー

5月27日(金) ~29日(日)

■KFC新長田交流会

5月15日(日) 神戸まつりパレード出場

6月14日(火) 遠足

■多文化子ども共育センター

5月21日(土) 新長田フィールドワーク

6月3日(金) こども食堂(仮)試食会